

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成23年8月9日

【四半期会計期間】 第27期第1四半期
(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

【会社名】 SEホールディングス・アンド・インキュベーションズ株式会社

【英訳名】 SE Holdings and Incubations Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 速水 浩二

【本店の所在の場所】 東京都新宿区舟町5

【電話番号】 (03)5362-3700(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経営企画部部长 松村 真一

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区舟町5

【電話番号】 (03)5362-3700(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経営企画部部长 松村 真一

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所

(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第26期 第1四半期連結 累計期間	第27期 第1四半期連結 累計期間	第26期
	自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日	自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高 (百万円)	1,855	1,655	7,584
経常利益又は経常損失 (百万円)	30	31	27
四半期(当期)純損失 (百万円)	25	21	305
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	34	141	283
純資産額 (百万円)	4,450	4,129	4,318
総資産額 (百万円)	10,739	10,127	10,446
1株当たり四半期(当期)純損失金額 (円)	167.15	136.87	1,974.69
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	35.0	34.8	35.4

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第26期第1四半期連結累計期間、第27期第1四半期連結累計期間及び第26期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有する潜在株式は存在しますが、1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

3 第26期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、投資運用収益の営業収入化を図るため有価証券投資業務に特化した子会社であるS Eインベストメント株式会社を設立いたしました。同社の業績は、セグメント情報等において、報告セグメントに含まれていない事業セグメント「その他」に含めております。なお、報告セグメント(出版事業、コーポレートサービス事業、ソフトウェア・ネットワーク事業、インターネットカフェ事業及び教育・人材事業)において重要な事業内容の変更はありません。

この結果、平成23年6月30日現在では、当社グループは、当社、子会社9社及び持分法適用関連会社1社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により東北地方中心に甚大な被害を受け、生産活動の混乱・停滞、物流機能の寸断の他、原発事故に端を発した電力供給懸念が広がるなど、被災地のみならず国内全体にわたり深刻な影響が広がったものの、期間末近くになってようやく生産活動の回復の兆しや被災地における復興需要も見られる状況となっておりますが、一方では海外経済の減速や円高の進行など新たなリスクも出てきており、再び先行きは不透明な状況にあります。

このような状況下、当第1四半期連結累計期間における連結業績につきましては、売上高1,655百万円(前年同期比10.8%減)、営業損失3百万円(前年同期は営業利益56百万円)、経常損失31百万円(前年同期は経常利益30百万円)、四半期純損失21百万円(前年同期比3百万円損失減少)となりました。

セグメント別の業績については以下の通りです。

出版事業におきましては、売上は徐々に回復基調ではありますが、東日本大震災の影響により4、5月の売上が低調に推移したことにより、売上高は599百万円(前年同期比9.3%減)、営業利益65百万円(前年同期比27.5%減)となりました。

コーポレートサービス事業におきましては、東日本大震災の影響により外資系クライアントの更なる販促予算抑制の影響を受けて売上高は188百万円(前年同期比15.4%減)となりました。営業利益は、労務費中心にコスト削減に注力し0百万円(前年同期比99.1%減)となりました。

ソフトウェア・ネットワーク事業におきましては、スマートフォン関連アプリやソーシャルゲーム開発などの受注が増加したことやゲームセンター運営事業が引続き好調なことから、売上高289百万円(前年同期比8.2%増)、営業利益33百万円(前年同期比198.7%増)と増収増益になりました。

インターネットカフェ事業におきましては、東日本大震災の影響により期初に集客力が落ちたことなどから売上高は376百万円(前年同期比10.3%減)となりました。損益面では、売上減少に加えて期初に新店開設費用が発生したことなどにより営業損失9百万円(前年同期は営業利益7百万円)となりました。

教育・人材事業におきましては、東日本大震災の影響による企業向けIT研修延期やIT人材紹介・派遣事業が低調だったことなどから、売上高196百万円(前年同期比30.5%減)、営業損失24百万円(前年同期比損失17百万円増)となりました。

その他の事業(注)におきましては、売上高4百万円(前年同期比463.9%増)、営業損失3百万円(前年同期は営業利益0百万円)となりました。

(注) 当第1四半期累計期間における「その他の事業」には、本年4月1日付で新設した子会社であるS Eインベストメント株式会社(有価証券投資事業)の業績を含んでおります。前第1四半期累計期間における「その他の事業」には、昨年9月1日付で当社に吸収合併された子会社である株式会社クラスエイ(当社本社ビルの不動産管理事業)の業績を含んでおります。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、受取手形及び売掛金313百万円減少を主因に、前連結会計年度末比319百万円減の10,127百万円となりました。負債については、有利子負債48百万円減少及び買掛金38百万円減少を主因に、前連結会計年度末比130百万円減の5,997百万円となりました。純資産については、その他有価証券評価差額金100百万円減少及び利益剰余金69百万円減少を主因に、前連結会計年度末比188百万円減の4,129百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次の通りであります。

基本方針の内容の概要

当社の株主のあり方は、市場における自由な取引を通じて決せられるものであり、当社の支配権の移転を伴う買付提案がなされた場合にこれに応じるべきか否かの判断も、最終的には株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えます。

しかしながら、当社株式の大量取得行為や買付提案の中には、その目的等から見て企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が株式の大量買付等の行為について検討しあるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買収者との交渉を必要とするもの等、当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上を毀損するおそれをもたらすものも想定されます。当社は、このような行為・提案を行う者は、例外的に当社の財務及び事業の方針を支配する者として不適切であると考えており、このような行為に対しては、当社取締役会が原則として何らかの対抗措置を講じることを基本方針とします。

基本方針の実現に資する特別な取組み

当社グループは、1985年の創業以来、IT技術情報の発信・提供、インターネット&モバイルサービスの提供、IT関連企業マーケティング支援、IT技術を活用した店舗展開及びIT技術者向け教育と人材関連サービスの5つを戦略的投資分野と位置付けて事業展開し、情報産業市場(IT市場)の成長に積極的に寄与することで、企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に努めてまいりました。

また、市場を活性化し、新たなプレーヤーの参加を喚起するため、IT関連事業者のインキュベーションを積極的に行いながら、自らの事業価値を最大化するためのグループ形成にも取り組み、平成18年10月から当社を中心とした純粋持株会社体制に移行しております。

当社グループは、長期にわたる社会への貢献と自らの発展を実現させるため、「本当に正しいことに取り組み続けていくこと」を基本的な価値観としています。事業活動を通じたIT技術・サービスへの貢献による社会的寄与、業績向上への努力による資本市場への寄与、納税や雇用の創出による社会基盤への寄与などの社会的価値・企業価値を永続的に実現できる企業集団を目指しております。このように、当社は創業以来築き上げてきた企業価値の源泉を有効に活用しつつ、当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させるための施策に取り組んでおります。

基本方針に照らして不適切な者によって支配されることを防止するための取組み(買収防衛策)

当社は、平成21年6月19日開催の当社定時株主総会における決議により、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し向上させることを目的として平成19年6月22日に導入しました「当社株式の大量取得行為に関する対応策(買収防衛策)」を、所要の変更を行った上で継続しております(以下、変更後の対応策を「本プラン」といいます。)

本プランにおいては、当社の株券を20%以上取得しようとする買付者が出現した場合、当該買付者に対して、買付に関する情報(以下、「買付説明書」という。)の提供を求めており、当社取締役会による当該買付説明書の評価期間(60日間又は90日間)が経過するまでは、当該買付者は、買付はできないことと定めております。当社取締役会は、当該買付者が本プランに定める手続を遵守した場合には、原則として対抗措置(注)を発動しませんが、当該手続を遵守しなかった場合には、当社監査役全員(全員が社外監査役であります)の賛同を条件に、対抗措置を発動することとしております。

当社は、本プランの詳細を、平成21年5月26日付で「当社株式の大量取得行為に関する対応策(買収防衛策)の一部変更及び継続に関するお知らせ」として公表いたしております。

(注) 当該買付者による権利行使を認めない行使条件及び当該買付者以外から当社株式と引換えに取得する旨の取得条件が付された新株予約権を、全ての株主に無償割当します。

本プランの合理性

当社取締役会は、以下の理由から、本プランが基本方針に沿い、当社の企業価値・株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

ア．買収防衛策に関する指針の要件及び尊重義務を完全に充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が2005年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則(企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性の原則)、並びに大阪証券取引所の「企業行動規範に関する規則」における買収防衛策の導入に係る尊重義務(開示の十分性、透明性、流通市場への影響、株主の権利の尊重)を完全に充足しています。

イ．株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されていること

本プランは、当社株式に対する買付等がなされた際に、当該買付等に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保し、株主の皆様のために買付者等と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的をもって継続導入されるものです。

ウ．株主意思を重視するものであること

当社は、平成21年6月19日開催の定時株主総会における株主の皆様のご承認の下に継続導入しております。また、本プランの有効期間は3年間とするいわゆるサンセット条項が付されており、かつその有効期限の満了前であっても、株主総会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることになり、その意味で、本プランの存続の適否には、株主の皆様のご意向が反映されることとなっております。

エ．合理的な客観的発動要件の設定

本プランは、予め定められた合理的かつ詳細な客観的要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しているものといえます。

オ．デッドハンド型買収防衛策やスローハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、当社の株主総会で選任された取締役で構成される取締役会により廃止することができるものとされており、当社の株券等を大量に買い付けた者が、当社株主総会で取締役を指名し、かかる取締役で構成される取締役会により、本プランを廃止することが可能です。

従って、本プランは、デッドハンド型買収防衛策(取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策)ではありません。また、当社は期差任期制を採用していないため、本プランはスローハンド型買収防衛策(取締役会の構成員の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策)でもありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	740,000
計	740,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	186,368	186,368	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式。単元株制度は採用しておりません。
計	186,368	186,368		

(注) 提出日現在の発行数には、平成23年8月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の権利行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年4月1日～平成 23年6月30日		186,368		1,406		

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 27,677		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 158,691	158,691	同上
単元未満株式			
発行済株式総数	186,368		
総株主の議決権		158,691	

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) SEホールディングス・アンド ・インキュベーションズ株式 会社	東京都新宿区舟町5	27,677		27,677	14.85
計		27,677		27,677	14.85

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,217	3,106
受取手形及び売掛金	1,634	1,321
有価証券	20	20
営業投資有価証券	-	281
商品及び製品	940	989
仕掛品	136	129
原材料及び貯蔵品	14	18
繰延税金資産	137	72
その他	113	125
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	6,212	6,063
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,752	1,761
減価償却累計額	664	688
建物及び構築物(純額)	1,088	1,072
土地	1,089	1,089
その他	967	972
減価償却累計額	852	862
その他(純額)	114	110
有形固定資産合計	2,292	2,272
無形固定資産		
のれん	459	450
その他	118	107
無形固定資産合計	577	558
投資その他の資産		
投資有価証券	443	262
敷金及び保証金	524	522
繰延税金資産	250	304
その他	172	170
貸倒引当金	27	27
投資その他の資産合計	1,363	1,233
固定資産合計	4,234	4,063
資産合計	10,446	10,127

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	418	379
1年内償還予定の社債	1,023	1,083
短期借入金	1,222	844
未払法人税等	39	9
賞与引当金	56	34
返品調整引当金	163	152
その他	401	422
流動負債合計	3,325	2,926
固定負債		
社債	1,703	2,028
長期借入金	777	721
退職給付引当金	203	203
役員退職慰労引当金	73	73
資産除去債務	29	28
再評価に係る繰延税金負債	9	9
その他	6	5
固定負債合計	2,802	3,071
負債合計	6,128	5,997
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,406	1,406
資本剰余金	1,902	1,902
利益剰余金	920	851
自己株式	642	642
株主資本合計	3,587	3,517
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	96	4
土地再評価差額金	14	14
その他の包括利益累計額合計	111	10
新株予約権	5	5
少数株主持分	614	595
純資産合計	4,318	4,129
負債純資産合計	10,446	10,127

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	1,855	1,655
売上原価	1,270	1,126
売上総利益	584	529
返品調整引当金戻入額	19	11
差引売上総利益	604	540
販売費及び一般管理費	547	543
営業利益又は営業損失()	56	3
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	0	0
投資有価証券売却益	0	7
負ののれん償却額	0	0
持分法による投資利益	-	0
その他	1	2
営業外収益合計	2	12
営業外費用		
支払利息	18	17
社債発行費	-	11
持分法による投資損失	1	-
その他	7	13
営業外費用合計	28	41
経常利益又は経常損失()	30	31
特別利益		
固定資産売却益	1	0
持分変動利益	0	-
特別利益合計	1	0
特別損失		
固定資産売却損	0	0
固定資産除却損	-	0
投資有価証券評価損	1	-
子会社株式売却損	55	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	11	-
特別損失合計	68	0
税金等調整前四半期純損失()	36	32
法人税、住民税及び事業税	1	2
法人税等調整額	2	6
法人税等合計	0	8
少数株主損益調整前四半期純損失()	36	41
少数株主損失()	10	19
四半期純損失()	25	21

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	36	41
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	1	100
その他の包括利益合計	1	100
四半期包括利益	34	141
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	23	122
少数株主に係る四半期包括利益	10	19

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	当第1四半期連結会計期間より、新たに設立したS Eインベストメント株式会社を連結の範囲に含めております。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	
(1) 当第1四半期連結会計期間の期首以降に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正により、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。	
(2) (営業投資有価証券の科目の新設)	当第1四半期連結累計期間において、投資運用収益の営業収入化を図るため有価証券投資業務に特化した子会社であるS Eインベストメント株式会社を設立したことに伴い、同社が保有する有価証券を処理する勘定科目として、流動資産に「営業投資有価証券」の科目を新設いたしました。また、これに伴い、前連結会計年度の末日において投資その他の資産の「投資有価証券」に含めて表示していた有価証券のうち同社への現物出資分98百万円を、流動資産の「営業投資有価証券」に振替えております。
(3) (金融商品に対する取組方針の追加)	S Eインベストメント株式会社の設立に伴い、デリバティブの利用目的に、従前の「借入金の金利変動リスクなどを回避するための利用」と並行して「その他有価証券(為替リンク債等)における組込デリバティブ取引など投資運用収益獲得のための利用」を追加しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
1 のれん及び負ののれんの表示 のれん及び負ののれんは、相殺表示しております。 相殺前の金額は次の通りであります。 のれん 460百万円 負ののれん 0百万円 差引 459百万円	1 のれん及び負ののれんの表示 のれん及び負ののれんは、相殺表示しております。 相殺前の金額は次の通りであります。 のれん 451百万円 負ののれん 0百万円 差引 450百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
減価償却費	65百万円	54百万円
のれんの償却額	6 "	8 "
負ののれんの償却額	0 "	0 "

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月18日定 時株主総会	普通株式	利益剰余金	45	300	平成22年3月31日	平成22年6月21日

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動に関する事項

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	47	300	平成23年3月31日	平成23年6月27日

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動に関する事項

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	出版	コーポ レート サービス	ソフト ウェア・ ネット ワーク	インター ネット カフェ	教育・ 人材	計				
売上高										
(1)外部顧客に対 する売上高	660	222	267	420	282	1,854	0	1,855		1,855
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	11		29		10	50	3	54	54	
計	671	222	296	420	293	1,904	4	1,909	54	1,855
セグメント利益 又は セグメント損失 ()	90	16	11	7	7	118	0	119	63	56

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社本社ビルの不動産管理事業を含んでおります。

2 セグメント利益又はセグメント損失の調整額 63百万円には、セグメント間の内部取引又は振替高消去14百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 77百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社の売上原価及び一般管理費であります。

3 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	出版	コーポ レート サービス	ソフト ウェア・ ネット ワーク	インター ネット カフェ	教育・ 人材	計				
売上高										
(1)外部顧客に対 する売上高	599	188	289	376	196	1,650	4	1,655		1,655
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	7	0	26		3	36		36	36	
計	606	188	315	376	199	1,687	4	1,692	36	1,655
セグメント利益 又は セグメント損失 ()	65	0	33	9	24	65	3	61	65	3

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、有価証券投資事業を含んでおります。

2 セグメント利益又はセグメント損失の調整額 65百万円には、セグメント間の内部取引消去10百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 75百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社の売上原価及び一般管理費であります。

3 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額	167円15銭	136円87銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(百万円)	25	21
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純損失金額(百万円)	25	21
普通株式の期中平均株式数(株)	152,291	158,691

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であるため、記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 8月 9日

SEホールディングス・アンド・インキュベーションズ株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 定 留 尚 之

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高 橋 幸 毅

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているSEホールディングス・アンド・インキュベーションズ株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、SEホールディングス・アンド・インキュベーションズ株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績の状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。